

阪神地区労働者協議会 第二回定期総会

第2回
昭和2.9

午後2時半 開始 午後3時半 終了
（4月13日 昼食費 130円）
（4月13日 昼食費 130円）

（1967年4月13日）
第一回準備会総会開かれ
（仮称）阪神地区労働者協議会第一回準備会は、
一月二十二日、阪神地区在住の約四。名の活動家
を集めて開かれた。

会は、世話人代表長井一男氏のあいさつの後、同
氏を座長に選出、ついで木本昭典氏より、こうし
た会合をもつて至った經過が述べられた後、討議
資料の報告（清田）と討論に入った。

報告要旨

一、現在複雑な対抗関係をもつて存在している（
いわゆる）新左翼諸潮流は、それぞれ長い革命
運動の歴史過程で生み出された歴史的な契機と
現実の階級斗争の中で生み出された諸契機に
支えられて生まれてきた。

二、諸組織が自己の誕生（主として共産党からの
分離）の理由とし、今日なお、その存在理由（
党派性）としているこれらの問題意識（具体的

に於いては、ブルジョアジーとの力闘争に視覚
が強く、けちじりしく、セクト的な行動を生み出
し、運輸上、組織上の共同作業を困難にしてい
る）。

三、しかしながら、新左翼諸潮流の間には、自己
を成立させた契機を絶対化し、普遍化する傾向
を据えた協同活動よりも電波の利害が先行する
ことが多いた。

五、他方、六。年から今日に至る日本の政治状況
は、

。實態、苟苦の自由化を至て資本の自由化に至
る過程で、企業間競争（日韓的大企業競争を

含む）の激化をテコにした、全体的な合理化
と販場の末端に至るまでの資本の支配の再編
、収束が行なわれ同じ過程を通じて企業（テ
オロギーが圧迫的に収束され労働者を支配す
る）に至っている。

。こうした状況にそつた労働運動の（右翼的）
再編が丁度問題、空樹構想等を軸にしながら
進展しており、かつ、それは政治構造の再編
を直接うながしている。

六、（いわゆる）左翼的部類は、こうした状況に
対応する「ことが出来ず、その活動の基礎を奪わ
れ全体として影響力を弱めている」

七、以上のような認識にもとづいて当面我々が緊
急に要請されていることは

。これまで個人の決意や判断、努力にせだわら
れてきた諸活動を組織的に統合すること、

。理論上の共同作業を通じて、六。年以後の状
況の変化を把握し、かつ、史的・理論的諸問
題の整理と解決に努力すること。（当然理論

斗争は非妥協的、徹底的なものであるべきで

。あり、かつ、理論上、思想上の結論に對しては
反対意見の発表、及び留保は自由であるべきで
ある——政治組織の非党結性——自己批判化の
拒否（拒否）

。経営活動を起業とする組織活動を系統的に行な
う（これについては限度の組織性が必要）
。但し、理論上の問題と組織上の問題は分離する
ことのできないものがあるので、この二つの側
面の矛盾は高層の政治的観察をもって処理する（
（2））

。こうした活動をつなぐ、政治、理論雑誌（紙）
の定期刊行と、活動センターとしての事務所の
設置（カンバ）

。活動の潤滑油としての財政問題の解決

。オルガナイザーの養成、地域的政治活動を含む
会を位置づけその加入基準は

（7）日本における社会主義革命の達成のために努力
する二点

。理論上の共同作業の必要性を認め、かつその活
動は非妥協的、徹底的なものであるべきで

勧に建設的に入参加すること、へ反対意見の発表
意見の留保の承認は、この組織にとつて本質的である)

○協同の政治、組合活動に参加すること、(總務の中でも当然要求される規律に服すること)
d.会員を納入すること
e.秘密を保持すること

〔討論内密〕

概略以上のような報告に基いて討論に入りましたが、そこで出された意見は

①協議会の性格をどこまで厳密にするのか——諸党派との関係

②現存する諸党派の分析をもつと厳密に行い、それらと協議会との関係をはつきりさせる必要がある。

③協議会の性格と関連して、その活動形態をどのようにするのか、いわゆる皮試体に止めるのか

それとも、政治組織としての独自の組合活動、理論活動を行うのか

④協議会の活動の基礎単位をどうするのか——地

感的なものにするか、それとも地域一産業別

のものにするのか

⑤報告された加入基準は一般的にすぎず、今日集まつた人々、及び我々が多種を手渡している活動家には、もつと強固な組織性があると思われるるので、それを文書化することによって加入基準とすべきではないか。

⑥採用紙の性格、発行、開設をどうするのか——

採用紙の発行は定期化(少なくとも月刊)にすべきである。

⑦将来、單一の政治組織への発展と展望するのかどうか等であり、専するに⑥協議会の結果の基準

⑧その性格と活動形態 ⑨組織的展望に論議せしめられた。

これらの三項に対して、討議の結果出された基

本的な方向は、

①結果の基準は、本質的には綱領にかかる問題であり、現在の段階で見整らものを提出する

ことはもどより不可能であるので、我々の間にの

る同質性を抽出し、かつ今後の協同作業の方向

を示す文書を起草して、改めて加入基準とする

○一回準備委員会

であるが、実際の活動形態における政治同盟

に近い形をとることをう。

組織の性格は、今日の段階ではまだ流動的であり、今後の発展方向は、これから行われる協同

作業の結果にゆだねられるところである。

尚、組織活動の単位は、企業別、産業別に形成

し、それに地域活動を加えた形とする。

○組織的展望についての全般的な運動の動向にも

かかる問題であり、今後の理論的、組織的活動の進展と見合せて問題にしていく

更に会議は協議会の正式発足までの接觸として準備委員会の設置を決定し、その人選を世話人会に一年して終了した。

尚、直後に開かれた世話人会が選任した準備委員会の通りです。

長井、師岡、小川、杉本、清田、後藤、中島、八木、松上、小山、南田、池五名(いずれも企業と

(4)

上河内結成会

(5)

ヤ一回準備委員会は、1月11十九日に開かれ、欠席者二名)た

決定事項は次の通り

1)当面の仮事務所を

尼崎市難波南通6の13清風荘内

電話連絡は

(4-1-2) — 74-2301(番風荘内) 小山や各

(4-1) — 3-3301(小中島診療所内) 松上

とする

2)加入基準の起草委員会次の田氏とする

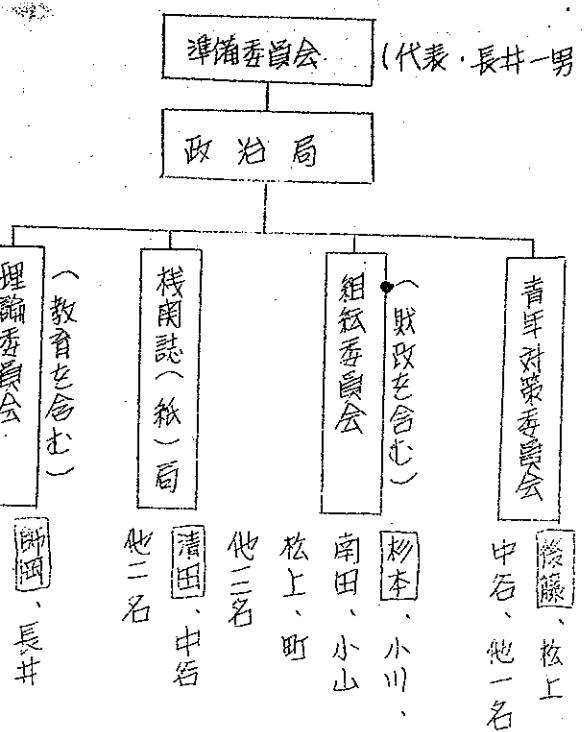
長井、師岡、八木、清田

3)協議会の正式発足までの大きなかスケジュール

は次の通り

二月中に起草完了、三月中討議と組織化、四月

四、機関を次のよう構成する



五、参加方法、会費等
参加方法は個人加入とする。費用、会費等
友好団体の資料を収集しておる。
会費、時代にしては幾變があるが、現在は
取扱会議に一包。
尚、機関誌名の公報するものにてしめす。次回
部数は当初三〇〇部の予定である。

●誌面の割合は西写次のようにする。

(1)内はページ数、一ページ一日。、字
王張(一)

政治、生活、労働問題の解説(4)

組織部(各分野)の幹事(鐵鋼、機械、農機械、金屬

青年政策委員会幹事(2)

文化、公務局教組一般委員会(5)

理論委員会(2+又)

×は理論的論文

学習の手引(一)

文芸(一)

書評(一)

阪神労働運動日誌(2)

労働運動ルポ(2)

以上二つでオーラの内容を決定(詳しく述べ)

回政局会議の頃参考)発行日を三月二十一日、

原稿〆切を三月十一日としました。

オ一回理論委員会

一月四日

今後の理論作業の基本点として

一、抽象的なテーマの設定はやらない
の解明をはかる

具体的には次の二つの作業を平行して進める。

(a)この間の日本の産業構造の変化とそれに応じ

た労働者階級の状況(物質的、イデオロギー

的)を調べ找出のそれへの対応を探りとる。

そのオーラとして、最大の基盤産業であり、
尼崎にとってこれが絶対的ともいえる比重をもつ
鐵鋼産業をとりあげる。

資料としては鉄鋼連盟、鉄鋼労連発行の諸資料
を鐵鋼産業に関する諸文献を用いるが、更

社会党(協会、江田派)
共産党
民主同盟
民社
公明党
JCF、IMF
節目
長井
八木
八木
同
樹屋
日本連
芳賀
長井
師國
清田
八木
八木
民社
同
樹屋
日本連
芳賀
(6)

(5)

オ一回政治局会議

二月五日

〔青年対策委員会の活動プラン〕・後藤
又云・映画評・アルジョのたたかい
後、

会費は一律五〇〇一（会員の財政状況に応じ
て出来るだけカンペを要請する）

機関紙は一部一〇〇トとし、出来るだけ独立
機関制にすることを決定。

二、理論委員会の報告を了承

三、機関紙の編集方針についての編集委員会の報
告を討論の後承認。

オ一号の内容及び執筆者を次の通り決定しま
した。

（主張）発足にあたっての起草委員会
（政治、学者、労働

〔総選挙の総括と政治的展望〕・清田

〔今後の展望と宣傳構想〕・杉本

〔組織部報告〕・名分野の責任者

〔青年対策委員会報告〕

〔反戦運動と反戦委員会〕・後藤

阪神商工運動日誌・・・機関紙局
又印のものは政治局会議にて討論をする

四、組織体制・・・略

尚、これらの会議と並行して青年対策委員会が何
度か開かれていますが、その報告は組織委員会の
報告と共に次号に掲載します。

(7)

(8)

書記局通達

1968

阪神地区共産主義者及議会

土議會
尼崎市 小中島二二五 7リ
ハラス内 TEL(49)2797

皮議会の再編につづいて

昨年五月十四日に發足したば詳会は、昨年一ぱいは
まがりなりに各種々の活動を展用して參りましたが
今年年頭からその活動は、ほとんど全絶え、有名無
実に近い存在になってしまひました。

服の作家が私たちの予測を「元々階級斗争の急進化發展に先立つて、あるいは平行して行われたが、後ことを技術会の活動の促進等に事實上の解体の基本的原因とすることができなかつれません。

今年九月以降、政治委員を中心にして、日露会の草命的再編のための作業にとりかゝりましたが、この間に出来れた見解のいくつかを次に紹介しますと。

活動の低落の何よりも大きな原因是、昨年十月ハ日の糸田斗争に始まるこの一年間の急速な階級斗争の展開に対して、一致して行動したるだけの理論的・思想的な一體性が欠けており、五月から十月までの期間が政治的・組織的活動はそれと謂ひうるものではなかつた。

私たての日本会への結集の要本向平元ノ前上
ての思想的、政治的立場通性には可く、これら
かといえは、過去の絆を操作したものであつ
て、それが改、十八、八月間斗争をさうかけにして

政治的立憲派の对立が陰然たる形で進行し、これはそれ以後一年の階級斗争を主導したいわゆる「寒れ玉争」の評価をめぐる見解の相違は、民謡会のもつ性格の單一性を一層強く破壊しかつ政治討論を通じて公認のもつ政治的公共性を否認していふことすら困難な状況を作り出したり。

事務所整備及財政問題

かの政治討論を通じて今更ながらの政治的公論達成を
性を再編していくことを、この種の状況をうけり
あれば、
もとより、長評会の結成によって生れたされたた
広汎な活動の基盤は、長評会の活動の発展によ
つて直ちに失われたわけではなく、それは戦争

組合としての反對言主委員会は實に純がれる。一
とによつてそれなりの受到を蒙つてゐた。
四　しかし同時に「特能しない反對会」の存在は、
尼崎における政治情勢が同日昇降の相違を示す。

いきいなものがはじ
の私たちは対応が云々の事で、先駆性として尊いと
「こしほ」后

た上で、共同で新しい基準を作製し、来春一月末から三月初旬を日程にして段試会の開催をはかる方針です。

（二）の一五周の国際的な階級斗争の評述と戦略的分析運動の発展の向についての文書は以下製作中であります。一月半旬にはその文書を提出することと想ひます。

事務所整備及び財政問題

これまでも主として反戦同年委員会の諸君がこの
事務所を活動の拠点としていましたが、今後諸君
が今后より一層有効に活用されるようお願いします
事へ現在二階には栗原氏（民評会）と、君（連盟
主）の二人が住んでいます。）

本日の同の段評会の財政支出はもつばら事務所費
費にかぎられていたので丁度、黒穂賃入金は十二
月二十五日現在十二万三千六百九十一円に達して
います。元少括式政事評議会とは、とりあえず、
今五月頭より賃入金を停止しておた金額が年末に

一括徴収してこれにあてることを決定しました。
これでもなお六万円近い赤字にならうのですので
是非十二月までの会費を一括納入下さると同時に
いくらかの一時金カンパをお願いします。

毎月徴収しなかつたのではなくはためくと思
りますが、活動もしていよいよ金を集めるわけ
にはいかなかった模様で、とて頂き、是非御
力下さい。

斗争の旗

発刊準備号

もくじ	主　　題長	—	—
	国民の政治動向	—	2
	独自の住民福祉運動の展開を	—	4
	販場の斗いを基礎に	—	6
	反戦青年委員会を再建しよう	—	8
	販場から・・・奉文組、金鉄金岡		
	診方所、電柱	—	12
	走　　意　　書	—	32
	ルポ　— 山村硝子の分裂	—	39

阪神地区共産主義者協議会

創刊に当つて

「政治的無風地帯」——これが五〇年代中葉の鉄鋼労働運動の敗北以来、尼崎を中心とした阪神間の政治地理学上の特質であった。しかし、いまこの無風地帯の中から長い低潮を打破するための新しい動きが開始されようとしている。

「（阪神地帯）共産主義者協議会」——この組織の結成を準備し、あさじはこの組織への参加を約している人びとの間にはたしかに多くの政治的経験の差異がある。そして、それに応じて私たちが受取ったレッテルにも多種多様なものがあった。「修正主義者」「トロツキスト」等々。こうした無意味なレッテルが横行する関係の中からは眞の会話も協業も生まれえない。

私たちはレッテルの瓦礫の中から何か新しいものが生まれだされるだろうと考えるほどの楽観主義者になることはできなかつた。

私たちを一つの組織に結びつけた契機が、この地域の長い政治的低潮であり、六〇年代に入つて急激に進展した資本効率制であり、それに対応した労働運動の全面的

後退と体制内化であつた以上、私たちの理論的・組織的工作の第一歩はそこに向けられたものでなければならぬ。私たちは、生きた労働者の中での組織活動を基礎にしつつ、今日我々が課されている理論的な問題を解決していくことを考えてゐる。

同時に二つの大洲間のヨーロッパ労働運動の悲劇的な敗北や三〇年代のアメリカ労働運動の鼎盛と敗北に深くメスをへれることを通じて、今日国際的な問題になつてゐるプロレタリア革命の理論問題にかかわっていきたいと思つてゐる。

私たちのこゝした動きに対して、今後もいろいろな批判がなげかけられよう。私たちはそれらの批判にできるかぎり答えていくつもりである。しかし、我々を批判する人々がまず知つておかねばならないことは、私たちは結びつけている最も大きな絆は世界のプロレタリアートとアロレタリア革命に対する忠誠心であるという動かしがたい事実である。

国民の政治動向

一 総選挙の結果から一

総選挙の結果について、いろいろな雑誌や新聞が分析を加えている。そこで言い合わせたように主張されるのは、外党化時代がはじまつたということであった。これまでの自民党と社会党の二大政党時代に新しい転換が生じたというわけである。たしかに国民党が議席をのばし、公明党が大量進出したのであるから党派のいろどりがまし、それは外党といつてよいであろう。だが、これだけでは、まさにそのような現象をうまく表現しただけであつて、総選挙で示された国民の政治意識のうごきはほとんどわからぬといつてさしつかえない。われわれは二大政党→多党への意味するところをはつきりと知らねばならないのである。

安保争議以後、しきりに政党的無趣味の増大といつてが主張された。個人的な生活を楽しもうといふ風潮に日本という島国がおぼれてしまふかのように説明され、そして、それは政治というものを全く無視することになるようになされたのであった。しかし、今度の総選挙はこのよう見方がいかに一面的なものであるかをはつきりと示した。もし国民がこれららの主張のようであつたならば、おそれるバラ色のムードをまきちらして、いはる、社会党は選挙ごとに確実に得票率を減らしてさたが、

今度はついに五割をわって四八%になってしまった。都市とともに農村での支持も失つて、ことに大都市におる減少はひどい。黒い霧のキャンペーンによつて地すへりするのではないかとみられていたが、それほどなく同党に奇妙な勝利感——安堵感がたゞよつていたが、けつして安堵できるような状態でないといわねばならぬ。社会党は前景気ほどの成績をあげなかつた。県下でも山口や五島が落選して、彼等はいすれも組合出身者であり、組合組織を基礎としていたが日常活動をほとんど行つていなかつた。組合組織自身が上意下達的な宣傳的機能となつて組合員の生活感情からだんくかけはなれた存在となつてゐること、組合が支持するといつだけで、票を投じたり、また選舉運動をするほど、

あまくはないのである。社会党といつてだけで、なにか革新ムードがたゞようといふ時代は去りつゝあるのだ。そして自民党に対する批判票が、すぐに社会党には流れこまないるのである。

民主党は議席数を二三から三〇に（現在三一名）のばした。これには同盟会議の努力があつたといわれるが、得票率は前回からわずか〇・〇三%だけ増しただけである。民主党のこの状況のものがたるとこは大きい。福井日本とよばれるバラ色のムードをまきちらして、いはる、社ヤードは、セイホーム、マイカー時代によばれるものが実さいにそのとおりであつたならば、これにぴつたりのものといえよう。しかし、国民は大量消費時代がそれほど長い根くなないことを見抜いて、ジャーナリズムがあれほど持ちあげ、思想的雰囲気をつくつてゐるにもかかわらず、福井日本がうたい文句には容易にだまされないのだ。

従来なら棄权していはづの夕に食い入った熱いば末端の活動家の説くところはむしろ公明党がこれまで主張していた、いわゆるゼミ文明——新社会主義による現状批判であった。すなわち政治的主張としては左への方向を示すことによって共感をかちえたものといえよう。共産党は議席こそ同議席にとしまつたが票は〇・四%をのばしている。われわれはこの党の持つ限界を明確に自覚しているが、しかし一般的にいって左翼政党として理解されてゐることを見落してはならない。

いわば、この総選挙は自民・社会の二大政党の退潮と公明・共産ののが大きな特徴であり、それは決してはつきりしたものではないが左への期待を示すものである。公明党は宗教党としてきわめて複雑な階級構成であり、政策ははつきりしないが、すでにこの選挙で左がかつた傾向から右への転換を示してゐる。また共産党が四年の伝統のほかに、現実を相撲に認めた政策をもたらすこととは周知のとおりである。現状のまゝでは左への国民的政治意識が正しく生きかえることはむつかしい。この実現のためにこそ、われわれはたしかにこの選挙で左がかかる。

六〇年代にはじつて日本の経済構造は大きく変り、工業と都市のしめる役割は決定的となつた。農村人口は大半に減少して都市に集中してゐる。この変遷の洞といふべき都市で公明党が大量得票と議席を獲得し、共産党が票をのばしていいる。公明党はこの選挙で財閥社長がいの福井日本体制を露見、西郷創益を主張した。しかし、

独自の住民福祉運動の展開を

一 地方選挙に際して 一

(前回→今回)

	議席	得票数	増減率
自民	283 → 294 (-6)	22,423,913 → 22,457,841	- 11.6%
社会	144 → 140 (+4)	11,906,762 → 12,826,039	- 4.3%
民社	23 → 30 (+7)	3,023,302 → 3,404,462	+ 4.0%
公明	25	247,2371	
共産	5 → 5 (±0)	1,646,477 → 2,140,503	+ 18.2%
その他	12 → 9 (-3)	1,956,313 → 2,553,993	+ 16.4%

衆議院議員選挙党派別得票状況

今年の地方選挙を尼崎市を中心にして概観してみる。県会は定員が一名増えて六名・立候補者は革新系は社会党が五名、共産党一名。これにたいして保守系は公明党二名にその他二名で少數戦になると伝えられている。市会は定員五三名のところ、約二倍半の立候補者が予想されるが、革新系は社会党一名、共産党四名が立つことになっている。

前回の市議戦では、われわれの仲間のひとり杉本が立候補したが、こんどは立たない。したがって、候補者なしで地方選挙にのぞむことになる。現代社会は生活のすみすみまで政治の力がおよぶし、およばなければたちまち生活にさしつかえてくる。街灯ひとつ道ひとつにしてもそうだ。逆にいえば、市民、勞働者はそれだけしょわれていくわけだが、政治はそれをふえさせ、福祉を実現させる場となっている。革新系の地方議員に市民が期待しているわけだ。

待するのは、まさにこのところでの戦いである。

そして、それは世論活動となつてあらわれる。しかし、このことは保守系議員がやつているところだし、むしろ得意とするところだ。ところが、革新系でも議員となると同じことに終始していく。社会党が、この労働者のまちで革新的三分の一を確保できず、候補者難からわずか一一名しか立候補させることができない原因のひとつは、このよきな活動型態にある。世論活動はつまるところ栗田かせぎだから同僚議員にたいしても排他的にならざるをえない。社会党市議団が、常設の自治体対策部をもたず、恒常的で研究をもつづけていなければ致命的な欠陥となつてゐる。

独立資本の団体を通しておこなう地方支配、一割自治への抵抗は、このよきなかたちでは不可能なのである。共産党は全市にて大物川系を埋立て、そのあとへ毎年、低家賃労働者住宅三〇〇戸を建てよ」というポスターを作るのは黒眉の問題にちがひない。けれども、それには将来への見通しと計画が必要である。おそらく、いままでが、でも「二つの敵」のお題目ばかりかげていたせいかも知れない。眞摯な問題にとりくむと急に見通

しき失つてしまふのは。

われわれは、今回の地方選挙に誰を推せんするかを決定しない。要請に応じて、それぞれ革新系候補を応援しているが、以上のような問題がのこされ、解決していくがねばならないことを忘れていいのである。

(師岡佑行)

軒場の斗いを基礎に 資本の全面支配に楔を打込もう

杉 本 昭 典

昨年は「不況下の春斗」といわれ、日経連が「企業防衛」を強く訴えたのに六五年を上回る一〇・四%、平均三・二八〇円へ昇給省調べの賃上げを獲得した。この原因として、春斗昇給賃金白書は、物価の急激な上昇等による賃上げの大綱的エネルギーと組合幹部の強い決意による斗争の組糸をあげてゐる。そして今年は「不況下でも斗えよ」とれる」という大綱的な確信の下で斗うとのべ、景気回復期の生産条件の好転のなかで大巾賃上げ獲得の条件は整へてゐるとのべてゐる。

こうして「一万円賃上げ」「ヨーロッパ並みの賃金」を目指に斗いがくまれてゐるのである。要求内容の特徴としては、大巾賃上げと、むに時短要求、諸手当、休日増加などかなり多面的な諸要求が提出されており、また、産業別最低賃金、年令別保障賃金の要求などがかなりとりあげられている。

日経連は、資本の自由化を前に企業の体质改善と物語

と賃金の懸念費をたち切るといふ名目で「企業に実力を競う」として、「賃上げに節度を」と資本蓄積を第一に、賃金抑制策をとらうとしている。

こうした背景のもとで、春斗をめぐる現実のヨイからいくつかの問題点を考えてみると、

ヨーイ、景気回復、生産性向上といふ状況はヨイやすい。中小企業の倒産が高水準をつづけていた現状からして、賃金斗争だけではなく、こうした面でのヨイが長期につづけられることが予想される。

ヨニに、これらた労働者を抜きをせん日内で鉄鋼などで成功してゐる。新勤務体制、作業長制度、駆除給など新しい作業方式と労務管理を直結させ、労働組合の右傾化をいつそう促進させる組合攻勢がよりつよめられることが

が予想され、これらの資本の攻撃をどう崩壊していくか、軒場・生産吳を基礎に生活と民主的権利を守るヨイをどう強めるかが問題となってくる。最近では、こうした軒場でのヨイが、形式的に特例に成り上げられ、幹部交渉で済ませ逆に末端の軒場では資本の攻撃にいかれ放しこうところが外くある。事前協議制や団交規・スト权を軒場に確立し、資本家の管理に介入していくことが必要ではないだろうか。

次に、賃上げ斗争のなかで逆に資本家から賃金体系のは正、駆除給の導入などが積極的に成されている。これに對して大巾賃上げといふことで果して対置できるのだろうか、昨年の年末一時金でも配分体系のなかでの成績配分・業績配分がかなりのウエイトをしめ、しかも一方的に資本家に資本家に賃金体系の是正、駆除給の導入などが積極的に成されている。これとした良から賃金体系、配分決定への介入、その具体案を組合がもつよう努力する必要があると思う。

また、産業別最低賃金、年令別保障賃金など共通した課題が提起されており、初任給の上昇と給んど賃金水準の平準化が進行している。これらにつれて個別資本への要求としてだけでなく、産業別・地域別での統一要求としてその具体化を検討する必要があると思う。

次に、春斗が三十万人に亘る雇用労働者の賃金上昇に役立ち、鉄占資本と政府の経済政策への大きな圧力となっていること、社会保障・物価問題・住宅問題などすべて全国的要求がからんでおり、これらとの結合の上で、その中核として労働者のヨイが強力に進められねばならない。

次に、組合幹部・活動家の意識的な交流と討論が活発に行われる必要がある。地方選挙もこうしたヨイの發展と結びつかないと成程はあがらない。ヨイをほどほどに、選挙になによりもどり戻向は断乎として克服しなければならぬと思ふ。

反戦青年委員会を再建しよう！

土口 田 正一

青年部報

去る三月十九日、久しく待たれた関西規模での「

ベトナム反戦関西討論集会」が成功した。

今後四月十五日の統一行動から六月に予定される
原子力空母（エンタープライズ号）、原子力商船
(サバンナ号)の日本寄港に向けて神戸領事館宮
園を含む斗いが試験されることにあろう。

三、一九集会はそぞろ意味でのスタートとして画期的であった。しかも、それを提起し、その中心となつて、大阪軍縮機、全大阪反戦青年をやり動かしたのはわれわれであった。この奥での問題提起の正しさは確信されてよいか、ことわれわれ内部の、尼崎での活動に関する限り、その底蒂ぶりは余りにもひどい。折りから九日を準備する中で、社青同との話し合いももたれ、委員会の再起が意証的におしすゝめられている時でもあり、二に、反青委の結成以来の一年間を皆さんに報告し、改組会の能力をあげての反青委再建への努力を期待した。

二、反青月乗車と四つの柱

11.

- ① 反青月乗車と四つの柱
- ② 政党からの自由の保障
- ③ 仁人加盟方式の徹底
- ④ 民主的討議の保障と、イデオロギーの一致を強制する者の参加できる。

ず、行動の一貫を追求する。

こうして、準備会のための準備会と社青同の呼びかけで尼崎のあらゆるよびかけ可能な組織へのよびかけが行われた。

ヘ民青くは例の如く、安保共斗、青年共斗再開をくり返すのみで具体的にどのような運動の中で再開をかちとするのかを明確にしえないばかりか、反青委に、修正主義者、トロッキストが参加していく、されば分裂行為に他ならないとしてかたくなに拒否した。

ヘ民青婦くは全然はなしにならない。

ヘ企金くは組織全体で加盟を検討するとの取り組みを示し、化学（櫛水）、鉄連（尼鉄）は、社青同同盟員が積極的に参加することが明らかになった。

二、社青月乗車から川・上川・舞木山まで

三月六日の結成大会は、出口光朔氏や天王寺反戦委の貢力をえて、準備会の方針が支持され、四十余名の会員でスタートした。執行部もへ準備会の準備会と社青同が折半して構成となつた。この洞の行動は

四、一〇、反戦委統一行動、反戦ハガキ販売とスモーカー

一一、街頭アピール

五、一、マーチリ・遊行のスマイル完成

六、二九 ハノイ、ハイファン攻撃抗議ビラ入れ
七、四 ラスク長官来日抗議行動（伊丹）
七、八 学習会（講師 小川先生）
七、一七 総会（映画会とデモ）

以上の三ヶ月間は、執行委はほゞ定期化し、連絡もスマーズにやき、統一行動はそのつど独自に活動し、独自スタイルによる市民权の獲得も試みられ、仁人の自覚と創意性によるスタートが切られたが、反面、街頭行動に傾斜し、系統的な学習活動があろそかにされたことが、会員の中には、新しに運動への魅力、あるいは、運動のなかつた尼崎に運動体ができたといふ、ある種のもの珍らしさの要素が加わり、又、社青同の中では仁人加盟ということが理解不充分であったことなどが加わって、大きめ低落への危険性をもつていた。

このことは、一、一六集会へのとりくみの中で仁人の奮斗や執行委の独走とがう形をとり、執行委と会員との間の意証のズレの固定化を進めていく。

三、川・上川・トトナム反戦日

日本連合青年会議

（平運の提唱を大阪軍縮機がうけ関西の全ての反戦組合に呼びかけ用語でも日本連合青年会議を聞くことを決定し、一ヶ月で集中することより、わざわざの運動にとつて

(9)

(8)

は、地域毎に行う方が成果があるとして、大阪中央、神戸、池田・尼崎（京都はすでに他の形で計画していた）で開催することを決定した。

尼崎では、すでに実行委員会が結成された。（反青委、アマゾン、NTA、社青同・地評青婦部・社会党）

（c）結果は、一ハロ名の参加により一定の成果を収めた。

しかし、討議の内容は、実行委の日米連帯会議の位置づけ、又、討議の柱の設定の正しさに拘わらず、分散的に流れた。それは何よりも、この会議の中心たるべき反青委内部での意志統一がなされなかつた（わずかに執行委内ののみ）ことが決定的だつた。

又、実行委を構成した他の組織へのわれくの影響力が弱く、他の組織が主体的に取り組むまでにはいたらないかった。

その結果、われくが会議の成果の定着をめざして提唱した尼崎反戦連絡会議もついに誕生の日をみなかつた。

反青委内部では、取りくみの中で、実状に即して、日本人同盟式から幾分逸脱するが、班対制をとり（横水・

尼鉄・金属鉄鋼・地域・学校）、執行委も事実上班よりの選出に切りかえた。

しかし、この会議の成果として次のようなものがあげ

られよう。

④はじめて、ベトナム反戦運動の課題が問題意識として参加者にうえつけられたこと。つまり、ベ平連を中心とした市民主義的運動、低迷しつづけ發展成平和運動、殆んど何になすところのない労働組合、人々のもう問題を更につきつめていくて、新しい平和運動が開拓されなければならないということが意図された。

⑤反青委を中心として、既成の尼崎の諸組織との間に「反戦」ということを通じたコミュニケーションができたこと。従つて、われくの活動によつて今後、尼崎の平和運動はかなり発展していくといふ見通しがもつたこと。

四、低迷一出現植物十削・しかし――
一一九六六・九（一九六七・二）

九月段階では、委員会内部で活動家が特定の個人に固定化していくことを心配しつゝも、ハ・一六集会の成果を過大評価することによって、辛じて自信を継ぎつゝ、ハ・三一、九・一ハと二度にわたる総会で、参加者は少數だったが（ハ・一六の成果の定着に努力がなされた）。

しかし、現体制への移行と、新しい執行委体制が確立しないうちに、尼崎市長選挙をめぐつて、会員に左倒的多数を占める社青同との食い違いが表面化した。それは、反青委がその組織原理からして、狭い意味で

の選舉運動にとりくみ得ない中にも原因があつたかもしれないが、八月の東京地本問題をきっかけにした社青同内部での分派斗争の激化・社会主義青年会中央に見られる反戦運動の軽視（これまで、执行委員会はつづいた傾向に批判的であつたようだと全く切離して考えるわけにはいかない。さて、既成政党、労組が市長選にかかりきりで、二・ニーストを目前に何の行動も提起しないでいるとき、我々は新聞紙活動や拠点へのビラ入れへ毎回約一万枚）を強化した。

そして十二月上旬の田原統一行動に向けて我々は全関西規模での統一行動を実現すべく、全関西の諸組織へ呼びかけを行つた。

尼崎反青委の呼びかけによつて開かれた会議の結果十二・ハ統一行動は各地で組織するが近い将来全関西規模の討論集会をもち、更に全関西統一行動に発展させることを約し、十二・ハにはメッセージの交換をすることが決定した、十二月八日には我々は大阪との共催（集会をもつこと、した）尼からの参加者約四〇名）

この頃、われくは新たに労組の十数名の仲間を得、

他にもいくらかの新しい活動家を結集したが、执行委設置の討議の全体への浸透はなかなか思うように進まなかつた。先の会議の具体化としての三・一九全関西反戦討

論集会の準備段階でも、中心メンバーの間では活発な討論が行われ、独自に統括的なパンフレットの作製も進んだが、それは必ずしも全体のものになつたとはいえず、結局、大衆的な活動としては整理券の配布にどきまとつてしまつた。

以上のままかな反青委一年間の反省の上に再建・強化の方向をいくらか提起しておきたい。

一、社青同との友好関係は勿論継続しなければならないが、それへの依存状態をたちさるためにも①尼崎の主要単組へ反青委として独自の働きかけを強化する。②ハ・一六、三ニース参加者へのオルグによる会員の獲得

に対するための理論的強化③日常的な学習・討論活動を組織する。④三・一九集会の内容を印刷して配布し、それを資料とした討論の組織⑤すでに進行中の独自のベトナム問題討議資料を早急に完成すること。⑥新聞紙活動の強化（特に定期刊行）

一、具体的な行動方針の系統的な宣伝活動

以

上

処分・人勧五月実施

再びストライキ体制え

去秋一〇月二一日に行われた公務員共斗全国統一半日ストでは、日教組が主として斗争に参加をした。全国的スト突入数については、新聞その他で報道済みであるが、兵教組関係では、停職一（県教組委員長）、戒告七、訓告一三八五名であり、県高教組関係では、戒告七、訓告五二三名となつてある。県教組中、斗争に参加したのは支部別に言って尼支部五五二名、他は姫路、飾磨の支部となつてゐる。

尼支部の戒告の場合は、支部幹部三名が戒告、他の三名が駁揚で戒告（そつたいした活動家ではない）となり、殆んどの多數は訓告となつてある。訓告の大部份は、身分、給料等に關係はない（私もそうだ）現在、県人事委員会に提訴中である。

問題は、この斗争、即ち処分反対斗争の由来が單なる委から出されたものであるが、処分の本質は、この斗争の起因を斗争参加者の行動の不正と言つて争ひでボヤかして、どう組むか、今年度、如何にして再び統一ストを行つてある。だから処分反対の争いは、今年度の人勧の争いを行くかゞ処分反対斗争の中心争いである。

周知の如く、公務員（教員）にスト权はない。しかし、ILSOとUNESCOの教員の地位に関する勧告六ハ二条では中間特闇の裁定が実施されなかつた場合、当然教員のスト权は確立されることを明記している（日本の政令一〇二号関係法規、地公法、田公法、公労法、地公法にはこの点はない）。又中間特闇自体が使用着側の御用特闇である。

今年度のストをどう打つて行くか……。このことは今年の人勧をどう出させて行くかと言つてことになる。丸田実施に持つて行くかと言つてである。人勧の賃金いや春斗の公務員のじや額にほど等しい、とすると、公務員共斗がどう春斗で斗つて行くか問題になる。しかし、公務員の場合、春斗での斗いはちよつと手ができない。

眩場から 鉄鋼

増大する利潤、強化される 労働、そして失われた斗い

戦後日本の鉄鋼業は他国に例のない驚異的なテンポで成長をとげている。これは一次・二次・三次へ現在進行中）にわたる「合理化」計画を土台とするものであることはすでに広く知られるところであり、その投資総額（約二兆二千億円）は、現在の国家予算のほゞ半分に匹敵する、ぼう大なものである。この合理化計画は現在も張力に推進されており、鉄鋼資本は先を競つて設備拡張に決死の努力を払つてゐる。

私は、全国組織インボテンツ（原水協、全入協、母親等）と言ふことを聞いたが公務員も又御外分に漏れまいだろう。これをどう斗うかは、長くなるので、又稿を変えて本然、NTAの新闘議等で詳べるつもりだ。

これら一連の合理化（設備、技術、労働生産性、労務管理等）の面を逐次、諸資料にまとめてその特徴、意図するものに分析を加え資本の動向を明確にしてゆく作業の重要性は緊急を要するところであるが、本稿の趣旨か

5、これらの問題の解明は後日になります。当面する春

業別争議の成否をかけた今春斗、とりわけ四月六日に

斗の「賀場に於ける情況」を以下簡単にまとめてみたい。
鉄鋼資本の利潤の巨大さを示すものとして、今年
三月期に於ける決算内容は前期比で五。%以上といふ空
前の利潤が予想されておりことをみて充分である。し
かもその利潤は「ことごとく企業内蓄積的性質の収入」「減
価償却費」の拡大に充當されている。当然のこととは、
労働者の分配の低下を端的に示すところであり、こう
した巨大な蓄積の背後にいつまでもなく鉄鋼資本の労働
者元の強力な榨取と生産性の急速な増大があり、生産性
の伸び率を人件費の伸び率の差は年々拡大の一途をたど
つていても決して過言ではない。以上のことから
生活向上を目標とする鉄鋼労働者の大中賃上げえの正当
性は何人も否定できない。しかし、問題は我々ももの、側の内部
にも山積しているという否定しがたい事実である。

今春斗の前哨戦に於いて資本の側から出された「鉄鋼高
額回答」によるもの元の対策が、賀場に於ける充分に結果
せず、逆に好況という背景から従来の一貫した「低額」
発回答」のしめつけが、今年は何んとかやるみそく、だと
いう甘い幻想の作用が労働者一人ひとりの資本の切崩
しを一足容易なものにしているといえよう。鉄鋼労連の

(14)

産業別争議の成否をかけた今春斗、とりわけ四月六日に
かけて行われるストロック標準の成否いかんは、春斗全体に
大きく影響を及ぼすことであることは否定できません
も、ストロック標準以後の斗いの展望が、賀場に於いて
全く眞無に近い状態であることは、毎度のことながら、
斗争の重要性を認識し、もつねにエネルギーのもて
あましに終る後味の悪さを感じさせずにはおかまいとい
う例年のごとき競争が強く感じられる。加えて今春斗と併
行して行われる地方選挙戦との思惑もからんで長年早期
切り上げえの現も感じられる。

貿易の自由化リ国际競争の激化リ国内に於ける企業間
競争の死斗、こゝから生じる企業内とじこめの思想を日
常にどう打破ってゆくか。
更に「出したもののはとりかえず」という鉄鋼資本の当然
の切りかえしだけはねかえしてゆくか。

(木本五郎)

そのことは、無自覚の症状のもとに臨床検査、
健康管理によって病気の出現を予想することを現実
的に知りながら、はるか遠くに迫りやられている。

地域住民と労働者の日常生活の中にこれらの健康
意識と社会保障の拡充を運動化し、意識的な自主的
管理の民主的医療構築と健康的かつ衛生的な環境づ
くりを積極的に築かねばならない。
我々が終局とする目標は、あらゆる疾患が個々の
好むと好まるとにかかわらず起るとするならば、
健康管理として日常生活の中で直面にとりくま
なければならぬ。

現実の課題として日常生活の中で直面にとりくま
ますます複雑化・高度化する社会環境のもとに生活する現代
人にとって、脳梗塞・公害・交通事故といった健康破壊が増
大する中で、健康な社会生活への希望はいやがうえにも高まり、したい。地域活動が不在の現在、単に医療だけでは
保健施設の拡大およびサービス強化・医療保障・社会保障の現
実的な充実への要求は際限ないのである。
にもかかわらず、公立病院や大学病院はもうけ主義を露骨に
し、地域の独立性の目標も明らかにしないまま過してしま
る。
また健康保険制度は国民の健康度とは無関係に予算編成され
医療への保険であることを無視し、国民の生命尊視の改善
をしようとしている。

(05)

機械形骸化された組合の中で

あき出しの合理化と

今年二月東芝、三洋社長は次のように述べた。「今後五年間のうちに一五〇億の合理化投資を行なう。人員は現状のままにすえあき、生産を二倍にする」と。この発言の中に、電杆産業の合理化の形態と特徴が端的に語られている。現在日本の重化学産業の直面している課題は、国際競争にうち勝つための生産規模の拡大、新鋭設備の導入、関連部門の統合、独立体再編成となっている。これは必然的に国家独占の枠組と枠能を全面的に発動した合理化政策としてかけられてきている。

電杆産業は、華々しい近代的産業として、マスコミにとりあげられているが、その性格上、機械化、自動化がはからず、さわめて労働集約的産業である。従って合理化は林業の導入により以上に、直接労働者に徹底した労働強化を掲げた方向を必然にした。他産業に先がけて、次々にもちだされる新労務管理方式などはこのためである。時間管理の強化としての週休二日制、帰休制、現在進行中の区別運動（黒欠点運動）、自己管理などと称される労働者自身の自発性の義務のもとに分断支配と相互の競争心をあおりたてている。松下、日立に導入され

望を含め、経済全体の中での電杆産業の位置づけ、今後の発展の方向、労使関係のあるべき姿、電杆労連のすべき役割、その他必要な事項を総合的に分析検討した、いわゆる電杆労連の産業政策を作成する必要を痛感……」と決議。結論は日本経済の発展に寄与する社会的意義を荷つたものだから、この責任を強く感じ、一方の発奮を望むものであるしなどとトウトウと述べ、経営者の顧問のつもりである。先にスト枚集約の全員投票を廃止し、三洋はついで役員選の全員投票を廃止し、松下品川では如何に抗議して独自に反対運動を行なった者に組合がさらに知り……などの左派への弾圧が行なわれ、全体として組員の任期延長、賄賂斗争の圧殺としての政策斗争などによつて官僚体制をきびこうとしている。こうして電杆産業労働者は資本のあくことなき奴隸にさらされ、一方、自らの組合は駆逐と御用幹部、組合官僚に占められ、駄場不莊の状況にあるといえる。

かつて松下、三洋、早川などにありていわゆる左派が主流を占めていたが、特徴的合理化をとらえず、無方針と賄賂斗争の政治カンペニアへの入りかえ、無闇心での増大を生みだし、現在の組合運営を坐み立した。そしていま賄賂左翼は、現カラ弊の危機になり下ろす、あまり駄場での困難を斗争から逃れ、街頭カンペニアに

れ、現ニ三洋、早川と全電杆産業に波及しそうとしている仕事別賃金は従来の徹底した低賃金体系に対する不满を終身の大巾賃上昇によつてではなく、配分を操作することによって解消しようとするものであり、若年労働不足と初任給の懲罰という状況での資本の要求に完全現状のままにすえあき、賃金は新たな差別と格差、労働組合が査定言の中に、電杆産業の合理化の形態と特徴が端的に語らされている。現在日本の重化学産業の直面している課題は、国際競争にうち勝つための生産規模の拡大、新鋭設備の導入、関連部門の統合、独立体再編成となっている。これは必然的に国家独占の枠組と枠能を全面的に発動した合理化政策としてかけられてきている。

電杆産業は、華々しい近代的産業として、マスコミにとりあげられているが、その性格上、機械化、自動化がはからず、さわめて労働集約的産業である。従って合理化は林業の導入により以上に、直接労働者に徹底した労働強化を掲げた方向を必然にした。他産業に先がけて、次々にもちだされる新労務管理方式などはこのためである。時間管理の強化としての週休二日制、帰休制、現在進行中の区別運動（黒欠点運動）、自己管理などと称される労働者自身の自発性の義務のもとに分断支配と相互の競争心をあおりたてている。松下、日立に導入されことである。これは労働者意識をバラバラにして、駄制と組合官僚の一層の強化をつくり出していこうとしている。(16)

電杆労連の組合員数は32万人であり、これは中立労連中最大の組織である。そこから中立労連議長、奋斗共斗委副議長を占め、そしてJMF、JJCの議長を持つている。従って日本の労働運動に与える影響はさわめて大きい。電杆産業労働者は72万人、そのうちの三分の二は残業を含めて一万三千円以下、約半数は一万五千円以下の低賃金で労働している。圧倒的多数を若年、婦人労働者が占め、低賃金体系と合理化にさらされている。

こうした中で今春の要求を決めた電杆労連四一年春季は「競争条件と労働組合の役割」として……将来の展望

自己を慰めている。だが役員任期延長、突出した部分への弾圧、役員選スト枚集約の全員投票廃止などに未されたものは幹部の駄場からの批判に対する狂氣じみた恐怖がある。不信票の増大（三洋、東芝）は白票を含め4%を超えた（斗争妥結に対する駄場からの抗議へ松下、三菱）などの危機的状況をのりきろうとする自己保身のアマダ左翼である。このうぶまく不満と、まあ流动化する組場を組織化し、物質的力とする活動は、まさしく我々自身に譲せられてくる。我々はすでに戦斗的労働者、意識的活動家による産別組織を自らの手で創出している。いまは大仰な市民権を得て、駄成指導部の教説へと組織的に斗つべき時である。いうまでもなく、労働組合における活動は現在、共産主義者の最も主要な活動であろうから。

“私はベトナム人を殺したくない”

脱走韓国兵の「日本七命願」を勝取れ

抗争に対する言語の自由すら奪われて、いよいよ本位に他の民族を抑圧する民族もまた自由ではありえない」とくにその激しさは、戦争の遂行国たるアメリカと最初に参戦に大量の軍隊を派遣してくる諸国で最も顕著である。

しかし、韓国では朴政権の軍事的抑圧の下で、六五年の斗争のエネルギーは、今なお民衆の不満として燐々としている。一昨年の春には、ベトナムに派遣された韓国兵数名が战斗参加を拒否し、米軍将校に銃殺された。そして今回の選挙で、野党連合の助けの中に、ベトナム参戦への民衆の不満が屈折された形で浮び上ってきている。

二の時、金東希青年の軍隊からの脱走、日本への亡命は、ベトナム戦争が民衆の自由、生存と鋭く対立し、民衆がベトナム人民との連帯を望んでいたこと、そしてその追求は自国の政府と現体制との決定的な対立をもつてなされることを、身をもつて示した点で、今日の国际ベトナム反戦斗争の最も勇敢な行為である。この斗争は、かつてアルジエリア戦争でのフランス兵の最も勇敢な行為であったし、いまアメリカ国内での徵兵拒否の斗争と

「私が自分の祖国たる韓国を離脱し、日本國に入國したのは恥業とかまでは生活などの問題でなく軍部の強制的にして反民主を南ベトナム派遣兵として命令をうけたのちこれに反対し、脱走したため、銃殺という極刑に処せられたる危険より身の安全を守るがゆえに他国七命を望んだからです。(中略)私は朝鮮戦争で幾多の同朋が殺され祖国が破壊されて戦争の残酷性を身をもって体験した。私はいままたベトナムで硝煙につつまれて、人間がお互に殺しあい国土を破壊して血で染めることに強い反応を感じていました。私の南ベトナム派遣の命令に対することは背筋に虫酸が走ることでした。(中略)あと六ヶ月間軍務すれは隊伍になる私でしたが、あえて南ベトナムに征き生死の境をさまようことは、平和愛好者の私としては考えも及ぶぬことでした。志願派兵の立てまえのことは、死を賄けても反抗する決心をしたのです。朝鮮人は國際法上、正当に保護されるべき外国人ですし、戦前とはちがり、朝鮮が独立国家である以上、私は何人にも

奪われない固有の基本的人権をもつた、れっきとした外国人です。イギリス人やアメリカ人と同様の国際法上の権利を私はもっています。私が亡命地を日本に選択したのは、もちろん地理的条件もありますが、とにかく私は日本國憲法前文ならびにヘボル条約戦争の放棄を規定し、平和主義を尊ニうと努力していける日本國に亡命したのであります。(中略)私は自民族の自決権を守るだけではなく、アメリカの極東軍事政策の犠牲となることを忌避して自己の生命を守るために日本國に亡命したのです。亡命した以上、韓國に帰國すれば銃殺が待つていいだけです。地球より重いとさえいわれる自己の生命を守ることは最大の基礎的人権の確保と思います。各國の成文法に規定するまでもなく、確立した國際慣習である前述の世界人權宣言もそのオ十四條で明らかにされています。保護されましても、日本政府や他人には迷惑をかけず、まじめに喜せると思います。(中略)以上、私は金東希に対する亡命をお許し下さるよう切実にお願いする次第です。(中略)金東希が日本亡命を求めた。私はベトナム人を殺したくなっただけであります。今日、ベトナム戦争の激化と国際的拡大はその參戰諸國の人々に苦しみをもたらすのであります。政府による戦争への国民の功貢は、国内であらゆる自由を封殺し、

東帝はいま一年の形を終了し、大本営密約にて（る）日韓
条約は日韓両国人民の反対を押しして結ばれた。そして
いまベトナム戦争を軸に軍事的・經濟的にますます結合
を深め・佐藤政府は極東の憲兵として振舞つてゐる。ベト
ナム戦争のためには、国連の人权宣言とも踏みにじり、
二の勇敢な兵士の地上からの抹殺。我々の斗いはいまお
そろしくたちあくれていり。我々の斗いは彼をもまもり
えず、我々自身の反戦斗争のアルジョア政府による虐殺
を迎えることあるのだろうか。

彼のオ第一次七命訴訟へ人命保全のためには却下された
オニ二次訴訟へベトナム反戦と人権のためには5月中旬に
始まる。朴政府は「説得」を開始し、彼は獄中で斗つて
いる。日高六郎氏を中心とする11人のよびかけに、81名
の知誌人が署名した。しかし事態は切迫していり、直ち
に法務省への抗訴・全青年への連帯と激励の表明・署名
カンペ・抗訴文モ・坐リニシをありゆるところを開始し
よう。午・15開西統一行劫は全国的大衆行動への突破口
である。午・15集会に、抗議決議・署名・カンペを基礎
ヒ結集しよう。

だが御懇はさらに、我々日本の当ににつきつけられた
責任である。佐藤政府と法務省はこのたゞ命願いき一蹴し
畢竟外政の手中に醜制送還を行なうので金

八周西での呼びか
集会への呼びか
蓮絡ください

二面の活動方針

理論委員会では、最初に会の活動をとるべきための理

論研究をやることを決め、さしあたり、日本の現状を構造的に知る手がかりとして尼崎にも関係のふかい鉄鋼業の分析と一九七〇年に對する諸党派の動向を調査することにした。だが、じつさいには、まだいずれも取り組めていないのが実情である。というのは、なにもサボっていたからではなく、会の発足にさいしての趣意書の作成に全員一同でつとも三人だが一があたらねばならなかつたためである。

しかし、趣意書を起草するために、いろいろと討議している間に、いくつかの重要な問題がでてきた。しかも、これらの問題は理論上、けっしてやるがせにしてはならないものであり、理論委員会として最初にあげた課題とならんと追究しなければならぬテーマであった。つまり、六〇年代に立ち向かう共産主義理論としての諸概念、平和共生、反独占民主改革、プロレタリア統裁などについて明確にしなければならないことである。そんなことをあらためていうまでもない。組織らしい組織をつくるための一条件だという人もいるだろう。現

にモスクワ宣言、東欧の現状をみて、これが実験にして自分でをするグループも存在しているのだ。それが

討議の中でもやゝはっきりして出来事は、われわれ

れらの諸概念をかららずしも同じ立場のものとして、ついになかったことである。ひとつ言葉をきくと、いつ

するにせよ、批判するにせよ、その内容が明らかにさればならない。おたがいが同じ立場にのりなければならぬ、も

うできないのである。同じ言葉を使ひは別のこと、

を言つてしたり、同じことを別の表現で示し、表現の仕

方が違つたためにまったく別のこととしているのかのよう

に錯覚したりすることがあまりにも多く、ますこの調整からはじめることが必要となつて、この調整ができてはじめて対話が可能となり、かつ相互の評価も正当なものとなることができぬ。これだけの手段をふまなければ理論争論などできるはずがない。この結果には、アロッキストや構築グループなど共産主義諸潮流のいわば両極端が存在しているが、おそらく、こうした作業を通じて両者の主張の相違点よりも共通するところを見出し、これによつて対話を明確に把握する機会が

つくりだすことが可能になるのではないか。

われわれには理論は理論、実践は実践といつよつに形式的にわけてしまふきらいがある。理髪の成績があがつたのも、野菜の収穫がふえたのも決して理論なればこそ

といふような説明はまったくいけないが、それでもはでしない空論を無限につづけるよりもましであろう。ベトナム戦争反対の運動にしてもまだ大衆化するにいたつて、青年反戦委員会中の活動から労働組合、市民団体まで広く拡大していかねばならないが、現在の平和問題について、平和運動について、平和運動と労働運動との關係について、政治的な見どおしについてはつきりとした理論的確信なしには、そのイニシヤティブを發揮するわけにはいかない。活動を拡大していくことはけつして技術だけの問題でなく、われわれが、どれだけ課題について広く深くとらえ、なすべきす向を示すかにかゝっている。共産主義戦線がいま理論的に分歧し、はげしく争っているのは、じつに二の方角を見出すための努力にほかならない。

われわれは、この論争から学ぶことにつとめると、もに、それがたんに論争のあとをおつことにとらむることなく、おもしろ現実の運動が提起する問題を出发点として、これらの論争にかゝり、理論的・実践的研究をおこなった

い。これによって理論に貢与するばかりでなく、なによりも理実の運動をすゝめるのに役立つものとなりたいと考えていい。



アルジエを通した現代の告発

八木 健彦

「だが、暴力は、歴史上でもう一つ別の役割、革命的な役割を演じるということ、暴力は、マルクスの言葉を借りれば、新しい社会をはらんでいるあらゆる古い社会の助産婦であるということ、暴力は、社会的運動が自己貫徹するための、そして硬直し死んでいた政治的諸形態をうちくだくための道具である」（ヘンク・アルヌ「反デニーリング説」）

映画「アルジエの斗い」はそのドキュメンタリーの方法によって、今日の世界の歴史的情況全体に鋭く迫つていた。そこにはニューヨーク以上のアワチニアリティビードラマの反ぼぬ情況と人間のリアリティがあった。これまでの映画の伝統的手法であつた心理主義、分析主義、個人主義や現象的な行動主義をこえ、行為の歴史的人間的内容を写しだし、その体験の空間的広がりを契機として一つの主体としての集団を造型し、同時にその客体を画

画の背後に浮び上らせる……一九五八年、アルジエ、階級斗争。

アリは一瞬の躊躇ののち、フランス人警官を射殺した。そしてここはアルジエリア。コロニーの不安と苛立ちは不安は憎悪に變る。対象はただアルジエリア人なのだ。憎惡は老人に集中される。老人は逃げる。フランス軍のジークが出動する。ジークは老人を追いつめる。ジークは老人を捕え、連れて去る。コロニーの安心。

カスバは封鎖される。フランス軍の支配。軍はフラン

スのアルジエの支柱。警戒線を脱けだし、時限爆弾をもつたアルジエリア人の女。彼女はこのために顔をおあうヴェールをとり、長い髪の毛を切った。ここは彼女の知らないもう一つのアルジエ。フランス人の世界。カフェ、ダンスホール、ナバート。コロニーの逸樂・富。だがそれは彼女のものではない。彼女の許された世界はカスバ。アイスクライムをなめるフランス人の子供。だが彼女は自分の子供と一日を過すこともできなり。ここはアルジエリア……。踊るフランスの青年。しかしアルジエリア人の彼女に青春はない。

フランス降下部隊と元反ナチレジスタンスの斗士マチウ大佐の弾圧政策。拷問と指導者の逮捕、カスバの破壊。沈黙の内にそれを見守り、ストライキに参加するアルジエの市民。マチウ大佐はいう「全ての問題は結局、フランスがアルジエリアを手放すか、フランスのアルジエリアを確保するか」と。フランスの敗北か徹底抑圧か。拷問に反対するものはフランスの敗北に加担し、テロを承認しなければならない。テロに反対するものは、抑圧に加担し、拷問を承認しなければならない。この支配と被支配、抑圧と反抗の基盤への態度を蔽きに平和はありません。

一二二では、サルトルがアルジエリア戦争に際し

て提起した問題がここで写しだされている。フランスはアルジエリアの反抗の前に、歴史の客体として自己の敗北以外に出口なき矛盾に苦悶し、フランスの暴力は自らの内部の頽廃のみを深める。歴史の主体はアルジエリアの手に、アルジエリア人民の暴力——フランスの抑圧と暴力の体験、文明の全てから疎外され、ただ奪われ、支配されることだけが与えられた体験、二の体験が内面化され、意識されたとき、アルジエリアがフランスに向けた暴力のみが、唯一の歴史への主体的行為として未來を抱えた。セネスト、逮捕、拷問、そしてアリの爆死、それをシリジリとした沈黙の内に見守ったアルジエは六年の暴動によつて独立を獲得した。沈黙の映像、それに続く映画のラストシーンはこの現代の可能性への限りない譲歩である。だが今日の私たちの情況は一層深いにはまっている。フランスの帝国主義的發展とアルジエリアの軍事カーディーと反動化、拡大、長期化に向うアメリカのベトナム侵略。これへの加担と東南アジアへの侵略を進める日本。今日とのような情況、斗いも全て世界的、歴史的である。私たちはいま世界史の密接・情況の共犯者の位置を強いてられている。

映画はつねに私たちに立場の選擇を迫り、生。その間にかけに私たちは答へねばならない。

八木

金 賃

資本主義社会における搾取のしぐみ

賃更とは何が。それは権力の發動と形態をどうせよ。資本主義の法則に於ては適当向であるのか。資本家はいつ、「そりは生産物の分け前である。」だから生産性が上昇すれば賃金も上がる」或いは「それは利潤の分け前である。だから企業のもうけに応じて変動する。」或いは「そりは労働の代償である。」にいら併せて「賃金は決まる」と。又二つして対応して「企業の支払能力論」や「利潤の分配率論」しが労働組合の側から持り出されたり、「能率給」や「貢務給」がよりよい賃金形態であるという幻想ば施行しにりする。

「これは今日の賃金体系と賃金斗争の実践的方針の問題」であるならば、常にふれられてなければならぬのは、なんらかの賃金の本質の簡単な解説を試みるものである。

「金儲けの仕事は、金儲けの仕事でござります。」
「金儲けの仕事は、金儲けの仕事でござります。」

卷之三

の生産物に而して、一つの商品である、商品として販賣される。これが、一方に一方の生産者から出る財物に入りて其種類

「うつむきのうで者は彼の商品すなわち努力を

販賣本家の商品すなはち貿易と交換する。
しかもこの交換は一定の割合で行はれる。3時
間労働を使用するのに千円という赤字、そして

「一千円は千円も腰こりる俺のめらかる頭品がで
てして」
「だから伊豆の者だ、彼の商品、伊豆力
があらゆる商品と一緒に割合を交換して貰うのである。
実際に伊豆の酒を取つて一千円ね、かくに一
升壺の米や肉、服など交換する。だからこの千円
は、伊豆力が他の商品と交換するの頭品だ、す

貿易の生産費につながる。

(25)

好いに貢平家が支払う貨幣額の様に限られる。例えは一日の時間の労働に十日としつづけに、だから貢平家は貨幣をひつて労働者の労働を算出し、労働額は貨幣と引き合ひ

（）の本題は、血分達の筋力を養ふる爲めにあつてゐる。しかしそれは少くとも見えてゐる筋力で、筋力者が實際に貨幣と引きかえして資本家に渡るのと、彼の筋力がある。この筋力が、筋本原は、「一日、一週間、一ヶ月等々も限つて無い。そして彼は、その包裹の正後では、筋力者と約束して期間がかかることによつてそれを消費する。この場合、筋力との筋力とする能力、人間が生産物とつくりに立すヤーに使う、肉体的・精神的能力である。筋力とはこの筋力なり。

整理、具体的な生き延命活動のことである。
——の時間分の労力一千円で、資本家は他の農耕地賃
うことばを出し、又労働賃は一千円で、一千円分の米
や肉と貰つ。だから一千円はひとつの米の価値であると共に
ひと時間分の労力の価値もある。だから労力とは労
働者に彼自身の肉体の中に保有する一つの商品である。
このように資本主義に於てよく聞の労力力も世のすぐそ

なら、彼の努力の交換価値をあらわしそう。貨幣は商品の交換価値を表すものである。商品の價格とは何ぞ云ひ得る。貨幣とは努力の價格の名前にするのである。又、貨幣は自分の生産した商品に対する努力者の手口なのである。これは資本家が一定量の生産的労働を賄ふ前で必要な。これは資本家が一定量の生産的労働を賄ふ

「うそだ、おまえの口うるさい。」
「うそだ、おまえの口うるさい。」

ヨリモアの測量官の仕事は、測量士、測量師、土地測量士、土地測量師等の職業である。これらは専門性の高い職業である。

とばの部の題目は向ひかへゆるのか、通本家にてこゝもうづべ渡ぬ、波の商品の生産費である、波の商品の生産費の上又及下にあるから計算する。

西面が生陸體の上回りてこの屋敷に近づくが、その平野に入れば、其の勢は益々強んで、一回り二回りの程

業の上昇が開始され、生産活動が促進する。この変動によって商品の価格は上昇せず、生産量は増加する。

部分、すなはち(も)に生産するのに必要な量の労力日がつこやされたり、従つてある量の労力時間である。しかし、この商品の価値(=交換価値)はその商品が体現される社会的労働の量、その商品の生産によっては社会的に平均的な労働時間であり、商品のうちの労働時間同志交換されるとこことある。同じくども、労働時間、労働力の価値についてこもる。それは労働力を生産するに必要な労働の量と何とか。労働力は玉きり人間の体の中に蓄つてゐる。そして生産によって一定量の生活必需品を消費しないわけにはならない。だから労働力の価値は、労の量が消費する生活手段を生産するに必要な労働の分量である。(2)

あら、娘は労働力の補充、更新と断続する。娘の娘が消費する生活手段を養つて労働力の再生産を補助しなければならない。だから労働力の価値の中には労働者の家族の生活手段の価値も含まれる。(3) その上に、自分の労働力を発揮させ、一定の技能を身につけるための、教育や訓練の費用が、労働力の貯蔵の中に入れる。

以上で、一言まわづから、労働力の種類と、労働力を生産し、発達させ、維持し、永続させるために必要な生活必需品の価値となることを定義する。もちろんこれが社会的労働の単純な労働力の生産額は労働者の生産額と収穫額とことになる。この価格によつてきめられ、金額は最も高い労働者の賃金とされる。しかし実際には幾つかの労働者の賃金は、(2)に記述した通りである。

我々はこれを問題の中にいれよう。資本家は労働力の

一日分、一週間分、一ヶ月分の価値を支払ひことにあつて、それが労働者たる由中、一週間、一ヶ月労働が出来る。この場合、労働者の賃金は生産物の価値は、彼の賃金によつて影響をうけることはない。生産物の価値は、彼の賃金によつて影響をうけることはない。生産物の価値は、彼の賃金によつて影響をうけるからである。だから賃金上昇をモドラすとどうの全く別の理由で、労働力の価値にひつて決定されるが、その労働力の使用費、労働者の活動工賃にギーと併せて利害を取るだけである。労働者の労働力の価値を限定する労働量は、彼の労働力が遂行できる労働量の限界といわれてゐる。

日本労働力の価値で算して価値を生け出す必要労働時間と資本家のためだけにおきし余分な労働を生け出す剩余労働時間に分かれる。(1)の剩余労働がつくり出す価値を剩余価値といつて、労働日のうちの剩余労働時間と剩余労働時間の比を剩余価値率又は摺取率といつてこう。我々の例では摺取率は三百分であるが、今日の日本では四百六十と云ふのである。更に労働力の価値はそれが維持又は再生産するに必要な労働量にひつて決定されるが、その労働力の使用費、労働者の活動工賃にギーと併せて利害を取るだけである。労働者の労働力の価値を限定する労働量は、彼の労働力が遂行できる労働量の限界といわれる。

資本と労働のこの種の交換(=資本主義的生産

資本利潤の基礎であり、労の者を労働者として、資本家を資本家として定めず再生产するといつ結果ともいひすものなのである。資本主義社会の生産の目的は剩余労働の生産であし、資本家階級はあらゆる手段を用いて剩余労働をかせ、労働者をつくした西千円の価値をうけたり労働者は自分の労働力の価値をつぶだためだけの時間のかせ、どうすれば資本家は労働力を半円しかつてしまつてゐる。このうえに資本主義社会の賃金労働者への賃金は、支払労働(又は必要労働)と不払労働(又は剰余労働)にわかれて、これに応じて消費

日本における労働問題について、あたかも賃金が労働者が支出した全労働にわたって支払われる。しかしながら、あるならば資本家の手に入る剩余価値はせ口につけ、資本主義的生産そのものになってしまった。こうして二、労働と不払い労働で、労働時間が必ず労働時間と割合の時間にわかれることになり、あおにかくす効率を演ずる。

又、労働力の価格は常にその価値以下である傾向をもつてゐる。労働力商品の売手と買手との競争では、労働者が労働力を売るのに付けて、有利な条件を結ぶことなどで王位に上り立場に上り立てる。又労働者の存在や資本の老廃による熟練労働の発展と不熟練労働へのあきらめ、婦人労働や兒童労働の採用によっておこし下げられる。更に、賃幣回数の下落、消費物価の値上がりなどによる賃幣金の低下、益々普大する労働者の賃金に対するモラハリによる、

生じ女工の労働の負担に対する労働者階級の犠牲の増加の傾向、更に労働時間の延長、労働条件の改善などによる効率化の一途となつて、奪取制

度の調査結果に対する所ごとに、或には採取の制限をめでたりとしと労働組合と生み出し、あらゆる段階、あるいは時期に亘つて採用される。これは労働者階級が、漸歩主義へ向ひ、階級的自覚をつらかし、团结をうながす、

一步であり、最初の形態である。

しかし、労働者が自分の労働力を売る条件を改善する所ごとに、奪取制度、労働者階級の終局の解放、すなはち賃金制度の最終的廢止のための斗争、「賃労働」と「賃労使」、國債及び利潤、「労働組合等」更に全体的な研究による「資本論」一部」と読んで下さり。

(28)

ニュース 京都府公案条例に違憲判決

する二月二十三日、京都地方裁判所は京都市の「集会、

集団行進及び集団示威運動に関する条例」に違憲の判

決を下した。

事件は昭和三十七年十一月一日「大管法反対」をかかれた学生約三〇〇名の下モ隊が道路（四条通）を封鎖して、待機していた約八〇名の警官の壁を破つて申請があり、河原町通りをデモ行進したものである。裁判の焦点は「京都市条例（公案条例）」の違憲性②共謀共同正犯理論の可否③共謀の存否であった。他方、京都における官憲の暴虐はこの年から苛烈を極め、デモへの参加に異常な決意を要するような状態を生みだしていった。

同様の状態は東京、大阪などの大都市で著しくみられ、安保以後の治安反動政勢が、直接の立法措置によつてではなく、地方条例をフルに利用した巧妙なものであったことを示していく。

さて、当日の判決の要点①の京都市条例は違憲②集会における共謀は認めないが、現場における共謀は認め

ると信じており、またそれを支える客観的情況があるとして公務執行妨害、傷害につけては有罪の判決を下した。検察側はただちに控訴、被告側も有罪判決を受けた三名を控訴、その後の長い裁判斗争が予想されることになる。

しかし問題の焦点は決して法廷と国家権力の圧力、そして裁判官の恣意にもとづく控訴審の結果にのみあるのではなく、二の判決をうけて、各地における公案条例反対斗争が、どこまで斗われうるかにある。

京都における公案条例撤廃斗争は、革新市長の実現によつて新しい局面を迎えているが、控訴審における被告側の斗争モードの斗争と密接な連けいをもつて進められることになろう。また共謀共同正犯理論は、刑法改悪草案に新しく規定されたとしており、大衆行動に対する大きな脅威になるおそれがある。

判決後五〇日になるが、困難な裁判であつたせいかまだ私の手許に判決の原本が届いていないので、それが届き次第、六〇年以後の治安反動の状況を含めて本議論を詳しく検討したい。 被告田長 清田

(29)

反戦運動の前進のために

三・二九討論集会から

一九六七年に入つて、ベトナム戦争は新たな局面をもかえています。米軍42万人他東南アジア七ヶ国の軍をもめて50万人をこえ、朝鮮戦争をはるかに上回る規模でベトナムへの賊虐な侵略が続けられています。そのような情況にもかかわらず、わが國における反戦斗争は10.21以降、12月の国际統一行動デー等もあつたが、決定的な役割を果していません。しかし去る3月19日の大阪でのベトナム反戦関西討論集会は、運動の拡がりと、運動への一定の基盤を築いたということで評価できます。それでは、今迄もあらゆる場所でいわれてきたベトナム戦争への日本の間接參戦問題であるとともに、討論を通して日本自身が米軍参戦とより密接に、かつより自立的に單獨化への内容に変りつつあることが暴露されたのは重大なことであった。

集会は、午前中、日高六郎氏の講演、森川金寿氏の報告、午後からは①ベトナム戦争の本質と平和解決の方法②日本政府のベトナム侵略加担と、加担の中で強める軍事強化・侵略性③反戦運動の原理と今後の進め方、の3分科会に分れて、活発に討議された。またこれら分科会

に金東希を守る会、砂川基地拡張反対同盟など代表団が加わった。全体集会において、これら分科会の報告され、それにベトナム反戦にさしまつた問題ではなく、アジアの人々はますますベトナムに開かれるべきであります。われわれは今日、まさにベトナム人民との連帯は、われわれ自身のために必要なものである。このような観点から五つの4つの緊急な課題を提起できる。

1. ベトナム派兵に反対して、韓国を脱走し、対馬で逮捕され、現在「密入国の罪」で1年の実刑に服している韓国軍兵長「金東希」の問題は、われわれどくに青年には深刻な問題である。彼は日本に亡命、または北朝鮮へは帰還を日本政府に申請中だが、日本政府はこれを無視し、人権に関する国連アピールにも反して、日韓条約を楯にして韓国へ強制送還しようとしているのである。現在の韓国朴軍政権下に彼を送り返すことは、明らかに彼

「金東希」を軍事裁判にかけ、極刑に処せられる二ことを日本政府が承認することになる。韓国軍からの脱走、この行為のベトナム反戦斗争への革命的な意義は、日本の模索的な斗争の現状へ、巨大なパースを与えるだろう。

日本の反戦運動の力量はこの「金東希」をも守りえないのか否か。われわれはいますぐ「金東希」の日本亡命を

保証しなければならない。このことを通じてベトナム反戦の全思想が明かになる。二の觀島から金東希を守るために次の行動を提起したい。

①長崎大村収容所々長宛に金東希強制送還反対の抗議

電報を配達証明付で一人でも多く打つこと

②地域・駅場・学園に金東希を守る大衆組織をつくる

2・11年前の大斗争「砂川基地」に再び闘争を払わねばならない。ベトナム戦争を契機として砂川基地の重要性は米軍にとって非常に大きくなっている。そしてその拡張はいまや緊急の課題となっている。砂川は軍事物資、軍事要員のターミナルとして、ますます拡大されつづけるベトナム戦争に寄与しているのである。しかし大型輸送船が発着するには十分を広げなければならないため、同基地がフル使用されていても米軍の要請に応じきれない。だからこそ早急な拡張が要請されているのである。このことからも日本はすでにベトナム戦争の戦場であることを認めたなければならない。すでに2月26日、砂川基地拡張阻止の実力斗争が開始され、四月下旬に才2波の高揚高が予想されるので、全国的な支援体制を固めねばならない。

3. ベトナム戦争における日本の加担の比重の高まりを象徴づける攻撃が、周到に準備されていることに注目しなければならない。原子力空母エンタープライズの入港

とその市石としての原子力商船サバンナ号の6月入港がそれである。原空母は、近く核基地として、トンキン湾をはじめ、中国近海に配置され、アメリカの重要な戦艦兵器になっている。それは同時に、今日の戦争における帝国主義的力量の象徴でもある。すでに日本政府は何度も原潜を入港させ、原空母の入港を承認している。残されているのは、ただ政治的配慮だけだと公言している。しかしこの政治的配慮の中に政府の戦争加担とわれわれのベトナム反戦の対決が潜んでいる。だから佐藤政府の攻撃は、同じ構造をもつ商船サンナ号の入港、「安全性」の宣伝を通してなされるであろう。したがってわれわれは、この商船・原空母入港反対の斗争をベトナム反戦の重要な環として、6月に向けて総力をあげた斗争を準備しなければならない。

④沖縄における米軍基地撤去、日本復帰・施政権返還の斗争はその戦略的位置から国際的ベトナム反戦斗争の重要な環である。われわれはベトナム反戦と沖縄人民の要求を結合させる斗争として4・28沖縄デーを位置づける必要があるだろう。

さうに、自衛隊適格者名簿作成反対、や3次防衛計画に対する反対の斗争をも結合し、反戦青年奉を中心とした全島規模の共同行動をおこすすめねばならない。(春山)

共産主義者 協議会規約 (案)

われわれは、日本における社会主義革命の達成のため、労働階級のあらたな前線組織を目指しここに結集する。アメリカ新自由主義によるベトナム戦争の戦火は拡大の一途を辿り、日本帝自由主義はこの蛮行への積極的担當によつて、漢大な利益をあげ、世界戦争の危機を促進してゐる。一た五〇年代の末から始まつた市場競争の新しい段階は、国际政治の分野においてはいわゆる多角化傾向をもたらし、日本においては労働階級に対する搾取の強化と政治反動をもたらしてゐる。日本においても企業合併、合理化、技術革新といった過程を通じての労働階級に対する搾取の強化が強力におしすゝめられており、またこの間、既存立法の恣意的な運用によって行われてきた治安反動は、小選挙区制、刑法の改訂などによつて、その合法的基礎を立てようとしている。資本の專制の完成を目指す支配階級の攻撃はオリンピック、紀元節、万国博を通じての國家意識の昂揚などのイデオロギーの分野から労働組合、諸政党にまでおよんでいる。これらの攻勢に対して、労働階級をはじめとする国民は積極かつ有効な反撃を組みするに至つてしまひ。

生産実における労働者の斗いは企業の内部に而じこめられ、個々に分断されており、形式的には着斗を名のつても、本当に連帶した斗いにはなりえていない。工員F、丁C、宝樹構想にみられる一連の動きは、たしかにこうした状況に基礎をおいたものであるが、一切を資本の手中に封じこめようとする支配階級の意図に照應したものであるといえよう。われわれ自身は、六〇年代にはじめて大きく愛ぼうした

現代日本資本主義の状況を明確にとらえ、支配階級との根底的な対決を視点とした政策と広い政治的展望をもつて斗う。そうでない限り、眞の連帶は回復せず、労働階級は現在の支配をくつがえしろる決定的な力をもつた部隊になることはできないうであろう。社会党のとる議会主義的コースはいかなる展望も与えておらず、日本共産党もまた、その小ブルジョア的民族主義と硬直した戦略論、さらには不斷に冒險主義を生みだす特異な体質によつて、現実への対応能力を全く失っている。他方一九五七年以降、主として日共から分離してきた諸グループはそれぞれ、日本共産主義運動史上の、あるいは日本の階級斗争の貴重な遺産をうけついで発展したにもかかわらず、それを具体的な運動の中で十分に発展させることができず、あるいは自己の思想の出発点となつた革命的革新的検証を怠り、自己の思想の絶対化と組織上の團體主義をその特質とするに至つてゐる。われわれは共産主義者として以上指摘したような現状をたゞ手をこまねいてみてゐるわけにはいかない。

われわれは、労働組合、市民团体その他様々なところで、それぞれ個人としてあるいは集團として活動してきた。そしてこれらの活動の中ではときとして孤立しままで政党的な機能を果さねばならなかつた。同時に日々の力量だけでは十分でないことを知り、前述政党をわれわれ自身の手で形成する以外に道はないことを痛感してこゝに結果するに至つたのである。さしあたつてわれわれは現在、工場における資本の攻撃と、資本とのたゝかいを回避する方針が、まさに支配階級の支配の維持・支配体制の強化、人間による人間搾取の絶対化のためのものであることを改めて確認する。そして一企業における様々な問題を一企業におしつづめず、労働階級全体の解決すべき問題としてとりくみ、共同の行動にまで高め、支配階級の体制強化の政策を堰りくすすために斗う。また日本人民の安全を危機におどし入れてい

る安保条約の破棄、ベトナム反戦などの争いを真に斗つたる部隊は勞働階級しかなく、これを確認して政治的宣伝を強化すると、もに行動を高めていくことに力をそぐ。地域においても同じねらいをもつて、ごくに放置され、また形式化している住民福利政策のゴマカシをあばき、眞の住民福祉を確立するための努力をかにじけていく。

周知のように日露共産主義運動は、平和共存、反対占民主改革などの命題を提起し、アロレタリア階級・労働者階級の主導する革命の理論的研究に多くの問題を投げかけていた。われわれはそれぞれ自らを共産主義者として形成する過程が同じくなかつたところから、これらの諸命題・諸問題についていまのところ理論的な一致をみていかることを平直に認めておかねばならない。しかし、こゝで確認しておきたいことはこれらすべてが解決しない限り、組織的活動が行なえないのでなく、すでに指摘したような行動はとりうるし、とらねばならないということである。だがこのことは、それぞれがもつ理論的立場の表明をさせておることではなく、相互に激烈な理論斗争を展開することによって、むしろ共通の土台をつくりあげねばならない。われわれはそれぞれがもつ理論的認識がどちらか現実を十分にとらえきっていなければ認めらるがゆえに、この結集体の中ではそれぞれの理論を自己絶対化することは許されない・まして自己絶対化による自己の主張の画取を通じて、この結集体を革戻場のどこかに振つことは許されない・このことは何より、かげんね容赦を意味するのでなく、かえてそれが自己の理論的立場を堅持することを必要とするのである。それでこそ理論斗争は可能であり、なによりも現実を部分的にしかとらえられてい現在のわれわれの理論を、理実の動きを全面的に把握しうる理論へと展開させる理論斗争が可能となる。われわれはとりあえず行なわねばならない政治的課題にとりくみつゝ、このような理論斗争を通じて理論的認識を高め、さうに新左翼諸潮流および既成

規

卷

- 規約

翼の中で苦惱している革命的部会との理論的、政治的協同作業を通して、名実ともに豊かな前衛党をさすと上げ、日本人民の解放を達成することを目指とするものである。

1. この会は「(阪神地区)共産主義者協議会」とよび、この会の運営及び前文を認め、その実現のために一定の金資を納め、組織的活動を行う者で構成する。

2. 入会にあたっては、会員二名の持せんを必要とする。前定の入会申込用紙に必要な事項を記入し、入会金及び一ヶ月分を添えて申し込むものとする。

3. 入会及び脱退の承認は委員会で行う。

4. この会の活動を有効に行うため、地域、地域などを単位に「細胞」を設ける。

5. 会を運営する幹闘として次のものを置く。

1. 総会

総会は少なくとも年一回以上開き、この会の活動方針、財政を決定する。

2. 委員会

委員会は、総会の決定の具体化をはかるもので、少くとも月一回以上開く。

3. 常任委員会

常任委員会は委員会の決定を執行する幹闘である。

1. 会に次の役員をおく。

議長 一名、副議長 一名、書記長 一名、常任委員及び委員若干名、会計監査委員 二名、書記及び会計監査委員は總会で選出し、議長、副議長はひ委員会で選出する。

会の経費は、ほんの金、諸費用はかねて一千五百西洋、人会費は二千五百西洋、

評書「戦後革新勢力」史的過程の分析

長井

田力

転換期にあるといわれる現状況に於て、この著書は一つの象徴的な意味をもつていると私は思ふ。——「戦後革新勢力」にとって、われわれにとって、私自身にとって、

本著は何よりも先ず、七十周年問題へのとりくみを動柱として生まれた実践的な性格をもつてゐる。が作業にとりかゝり始めるや、单なる机上作戦に終らないためにには革新勢力構編成の問題、その深部の課題にアプローチする方向に重きを置きかえざるを得なかつた。——著者の告白そのものが既に現状況の特長を端的に反映してはいかへばしがき（二頁）。著者の問題意識はすべてこの基盤の上に実践的な重みをもつてせまつてくる。

○戦後革新勢力の日本内表辺に於ける形成と解体――

戦後、占領、横和の特殊日本型過程によつて、サンフランシスコ体制成立期に、平和、民主主義、独立、生活向上へ

社会進歩）を指標とする一體感をもつた国民的底辺の形態。安保斗争後、「戦後平和思想」「戦後民主主義」の勢力者たちをも含めての（「労働者意義の四重刃」）「私生活主義化による底辺の解体。その誘因——高度経済成長政策とそのイデオロギー、その基礎——日本國家主義と資本主義の論理と構造。（第一章）

○革新指導部——社、共、労組——の特長——（戦後史）

の特殊な過程による社会党の「主座」。一つの指導部さ頂点としてピラミッド型に国民大衆を結集するのではなく底辺と相対的に孤立した縦割り並列型——労働者階級のヘゲモニーの欠如。安保戦に於ける「分裂の季節」——政党次元に於ける綱領的分裂と運動次元に於ける分裂、系列化。（第二章）

○社会進歩）を指標とする一體感をもつた国民的底辺の形態。安保斗争後、「戦後平和思想」「戦後民主主義」の勢力者たちをも含めての（「労働者意義の四重刃」）「私生活主義化による底辺の解体。その誘因——高度経済成長政策とそのイデオロギー、その基礎——日本國家主義と資本主義の論理と構造。（第一章）

○革新指導部——社、共、労組——の特長——（戦後史）

の特殊な過程による社会党の「主座」。一つの指導部さ頂点としてピラミッド型に国民大衆を結集するのではなく底辺と相対的に孤立した縦割り並列型——労働者階級のヘゲモニーの欠如。安保戦に於ける「分裂の季節」——政党次元に於ける綱領的分裂と運動次元に於ける分裂、系列化。（第二章）

ナス、プラスへ転化するための将来努力への歴史的試練として田つの検討課題と五つの緊急課題を提案。

（終章）以上があらましであるが、私は一読して、いわば否定面と積極面の奇妙な交錯、矛盾を感じざらるえた。

否定面とは何か？——一に現象的記述に終る現象主義的だが、法上の弱兵。二に全体的視覚の不足。例えば次のように示す所に現われてゐる。

（）フルシチヨフ失脚、中日核実験によつて世界は「

もはや戦後でなくなつた」とする考え方（二頁）——現象的変化がどのようにであれ、「ヒロシマ」の象徴的意味が失なわれず、核武装国家が地上から姿を消さない限り、玄い意味での「戦後」はおくならぬであらう。

（）「戦後」——平和思想、民主主義の「私生活型合

理主義への変化は同じ一つの「実体」上の異った発現

形態と考る。併しこの実体が政府の政策への反応といつ政策的次元でしかとらえられていまいのでは、へれ九頁）「実体」なるものの正体はつくとも私にはわからぬ。

（）日本型構造改革論の記述と批判（二七五—二八

七頁）現代資本主義の本質的特徴への政治・経済

的分析の土台にもつと深く立脚するなら、「反独占政策」への別のアプローチが可能なのではないか。

（）わゆるトロツキスト諸集団、備蓄派諸集団は著者の眼には、社、共の行間に少く消極的な、殆ど否定的な小集団としか写らぬらしい。その客觀的存立意義が否定的媒介を通じて新しく全体的なものにつながつてゆくといふ小数派のむづ創造的反証法は著者の視野の外にあるようである——あまりにも現象論的——前記論的視覚の欠點。著。等々。

現実の本質を覗きうる方、論。「疎外」的視覚をも本質的分析として含みこんだイデオロギー的分析視覚、現代資本主義の特長に迫りくる政治、經濟的分析視覚、現代の前衛論的視覚、この三つを総合し、一つの原典に集約する全体的視覚こそ現在われわれに必要とされてゐるのではないかだろうか。

以上、著書の否定面と表裏一体となつて互に制約し合う契機として含みこんだイデオロギー的分析視覚、現代資本主義の特長に迫りくる政治、經濟的分析視覚、現代の前衛論的視覚、この三つを総合し、一つの原典に集約する全体的視覚こそ現在われわれに必要とされてゐるのではないかだろうか。

（）著書の否定面と表裏一体となつて互に制約し合うものに着目する立場——構組の様なものがあると思つ。それは著者の抱く「民族解放社会主義」の綱領的立場と前述小數派への考え方につながる既成のいわば社共二大政党主義と方々考究方に立つ社会党員としての立場であらう。

（）著者は社会党員であるが社会党セツル主義がないのは特

だがこの著者の立場は一すこに於て著者の思维方法、視覚を全体として限界づけると共に、他方ではこの限界の幕をうち破つて著者の柔軟な思维、貴重な見解がほとばしりで、かゞやくのを私は贊前に見る。これは恐らく著者の長年に渡る理論家、実践家としての蓄積の裏付けがものをいっているのであろうと思う。つまり鋼領も政党的立場も現状の大局に於ては必ずしも絶対的ではないと、いうことをこの著書がその方法、視覚にもかゝわらず、期せずして立証していくという所に、私は本書の肯定面を見るのである。

現状に於ては、「革新勢力の再編成」をその「深部」からおし進めでゆくためには、一つの鋼領の高みからすべてを展望する鋼領は恥恥をやめ、いわば一派鋼領をカッコの中に入れること、政党所属にこだわらないことから出発して再編成してゆく理論上、実践上の組織的な鋼領作業が現実に一つの生産的なケースとして可能になっている。それは鋼領別の縦割り並列型ではなく、当然横断型であろう。諸政党の上部段階では、そういうことは当分子可能であろう。現状では、それは、当然、区域、地域を含む下部段階での地方的小集団としてしか最初はありえないであろう。

理論的、政治的、組織的に現代革命の黒東の探究をめ

ユルジタボ

山村硝子労組の分裂問題

硝子労組大會が行われた。この定期大会の由で大會代議

員半下（）では組織分裂といつ事故が発生した。

全硝労では昭和三十九年石塚硝子（名古屋）をモニ二組合が発生、全硝労組織となり、現地動員でヨツハ結果無条件組織統一といつ形でヨツ角で終結した。

そして昭和四十年來より、同じく全硝労新東洋硝子田名余の解雇問題を契機にてトライキ斗争に入り、その田び文二組合が発生し、翌年二月、店名解雇を撤回、出向と希望退職者の募集という内容で解決した。

しかし、石塚、新東洋の組織分裂を基軸にして二つのヨリは、結果的には前者に於てはモニ二組合の組織乗つ取り、活動家の排除といつ惡条件の現場の状態を生けだし、後者に於ては、事實上の活動家の現場追放、又二組合の拡大といつ状況の中で激烈な攻撃の前に二つに別れるところ結果になつてゐる。

（）全硝労のヨリを背景に、二十年の二月、山村

さしだす、むこのようない「奇妙」な組織が全日本諸労に組織され、その夫々の実践によつてやがて全国的連絡の網の目が出来上るとき、戦後革新勢力の再編成を現實的に成功とする労働者階級の前史的力の基礎が成熟する、という見通しをもつことができる。

清水氏のこの著書は以上のよつた否定面、肯定面のからみあう交錯、矛盾のものによつて、遂にわれわれの問題意識を駆起し、われわれの立場を照し出し、鍛えあげるものとなつてゐる。はじめに象徴的といつたのはこのよつた意味に於てある。諸君自ら一読されることを敢えておしす、める次第である。

（）の選場面の主事メーバーの中に「」、と云ふ組合の委員長、支部長などと勤め、北村、黒木代などがあつた。組合執行部では直ちに「」の問題をどうぞ、权利停止等を含む糾制処分を行つた。こうして組合内部に対する反対は、そのまゝ昨晩（）もちこなされ、新東洋硝子の争議に於る全硝労指令の一人への〇〇〇円カンパ額（39）その頂点に達して。即ち、新東洋硝子争議は成果がなかなか行はれず、全硝労の指揮は直ちに「」となると不払批判すべきであるといつ理由（）たてて、井上農園の

（）不払問題の方からの抵抗の前に組合執行部内では新東洋硝子の争議の総括を全硝労が行つて、井上農園の批判すべきであるといつ理由（）たてて、井上農園の

一九三七年執行部体制の動搖の間げきをぬつて、不協同團は民主化並道主義として名のりを上げ、辞任して浅山寿爾長を祀り、定期大会をひかえての役員改選で正面からの対決となりた。

推進のあす、浅山等を七〇〇対三〇〇と圧倒的に破り、新執行体制をしこた。しかし、民進側は、投票用紙をもらさし、「筆跡鑑定の結果、多數の不正投票がある」とが判明した。直ちに告訴するとして声明し、合せて、現在の組合執行部に従わないとし。組合側は直ちに定期大會の名にあいて、西野・松島・眞之国・天野の除名処分、失水の権利停止を決定し、12月29日付をもつてこれを執行し、対抗した。

そして四十二年、一月十五日、外貿部の改定一百条
名の組合員が神戸和田岬、三菱重工組合の和田クラマードに
於て、山村硝子新竹町組合を結成した。
以上が、山村硝子に於る組合分裂に至るまでの素描で
ある。

二二二

（略）として、自己の危機意識（会社に直結する）によって回避しようとする動機もある。因みに、駒更・中高年等と会社を結合する重要な役割を果してるのは元組合委員長、元西宮地区労働組合現任山村の辻△担当部長橋本寅代である。

又一一一、一般的に云われる二つは全硝子午下で一万未満の組織で、石塚、新東洋の長期定期と現地動員方式で金と縁で仕事させたり待遇等がどもとも誤りであつてこれが批判である。

えりこるね、ともあれ、石塚六〇〇日、新東洋八〇〇〇円、春川一睡金肆万の賄賂力ハペヒコリ形アリの賄金調達及、所持のもの及びモリノ皿ガチに勝利を組合員に提示しぬかつ正収上、氏の賃金・生活との関係の申込大吉(はくじ)にて開業立派の件。

馬鹿に思ひながら裏を翻しておいて、階級意識を口吹きの如くに解決しようとしに附つた左翼主張が存在してゐることである。しかし左翼主張及び組合組織内の旧い人々が説得と講義せよに付けて中止に解決するところ方法でなく、組織外にせざり田舎者とこの結果が生む田舎者の

アリミ組合側からの会社に対する評価のあり方(二)

は、出版し、次第に讀本を乞ひものとして川柳の全盛期に至りましたと、他方では、庄オルタ活動の重複してゐる所である。

在してはことゝに、二つが顕在化する事例、一方では年功月への依存による解説の如きもしくは不可解にする危険性があるところである。そこでこの要筋は、三本資本主義問題の概要としてのものと並行して、不可避的に起る。そこからすれば、勢は我々行動的で、我々が強引なことは一つ主義的階級的結合主義は、企業内組合という性格をテコた資本の全面的進場によっての重壓が起るや極めて崩れやすうことにつきである。

用分子が結合してゐるのである。しかし、これらは新民族本は新しい経験陣に敗退するのであるし、同時にそれが企業の近代化の中で細分化が不用になる。だから我々は、結局敗北するのだとこの見解主義である。この考案は一面の眞理を含んでゐて、その側面アスペクトからいふと、さういふ見方もある。

マーティ、硝子工、機械工の近代化によって生ナビヤル、手加熱練工と磨き手磨出者との格差があり、対立である。これが生産部門でも現われてゐる通り、従来から生ハサウエー労働とカーバイドくらべてモダンな作業が機械化されゆるや、殆んど若手労働者に切りがえられていつて。もう少し人事態を反映して、組合も又、従来の車工組合的(じゆみゆ)な組合役員は販場で技術がある責任者(くみせんしゃ)から、平均年令二十二、三とくの組合執行部へと変つていつて。三三の転換の契機は、改年前進階制度(車ム給)導入問題に於て、組合執行部の規定化に対して、青年弓の職回覆名にてよつこくづがえしにことなるあつた。この事件は、活動家として育つてニモ青年弓、中高年幹部はタリ幹さあり、ヨウコの若手労働者などにつ考え生之つけ、逆に名にてよつこくづがえしにことなるあつた。この事件は、活動家として育つてニモ青年弓、中高年幹部はタリ幹

しぬこともあり、こうした組合側の請求に対する過少評価が、同様に現地運営が、組織内分派によって存在して正時期に輕視し、組織外にはじき出されどこづれも反対して立つておられる。

以上の点は組合内分裂の組合方略から見れば、問題である。

しかし西園は、全硝化の方針との関係の中で詳しへ探らなければならぬ。これ更に山村義本の分析も要因である。組合の過激的立場につけての評価も行なわれるが、どうか。これらの問題については、次回で行なうとする。

(一)

斗争の旗 創刊準備号

発行日 1967年4月1日

編集 「斗争の旗」編集委員会

発行所 阪神地区共産主義者協議会
尼崎市難波南通6-131 清風街15号

定価 100 円(手共)